

第2次

糸島市子ども読書活動推進計画



平成29年10月
糸島市教育委員会

目 次

第1章 第2次計画の策定にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1 意義	
2 背景（現状）	
3 国の動向	
4 県の動向	
第2章 基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1 計画の目的	
2 計画の位置付け	
3 計画の目標	
(1) 家庭・地域・保育園（所）・幼稚園・学校等における子どもの読書活動の推進	
(2) 子どもの読書活動の推進体制の整備と普及啓発の推進	
4 計画の対象	
5 計画の期間	
第3章 これまでの取組みの成果と課題・・・・・・・・	4
1 成果	
(1) 家庭・地域	
(2) 保育園（所）・幼稚園	
(3) 学校	
2 課題	
(1) 3～6歳児及び小学校低学年の家庭の状況	
(2) 中高生の状況	
(3) 保育園（所）、幼稚園の状況	
(4) 学校の状況	
第4章 推進のための方策・・・・・・・・・・・・・・・・	5
1 重点項目	
2 家庭・地域・保育園（所）・幼稚園・学校等における子ども読書活動の推進	
(1) 家庭・地域	
(2) 保育園（所）・幼稚園	
(3) 学校	
(4) 市立図書館	

3 子ども読書活動の推進体制の整備と普及啓発の推進

(1) 推進体制

(2) 普及啓発

4 糸島市子ども読書活動推進計画体系

5 具体的な施策例

第5章 資料・・ 15

アンケートからみた取組みの成果と課題（平成24年度～平成28年度）

糸島市子ども読書活動推進計画実態アンケート集計結果（平成29年1月実施）

第1章 第2次計画の策定にあたって

1 意義

「糸島市子ども読書活動推進計画」（平成24年10月）の策定から、5年が経過しました。この間、テレビやインターネット等の情報メディアは更に普及し、子どもたちの読書環境に大きな影響を与えています。

また、全国的にも小学生、中学生、高校生と学齢が進むにつれて、不読率が上昇しており、本市においても例外ではありません。

今回、これまでの取組みを検証し、成果と課題を明らかにするとともに、より一層子どもの読書活動を推進するために、第2次計画の策定を行います。

2 背景（現状）

平成28年度の「第62回学校読書調査」（全国学校図書館協議会、毎日新聞社）によれば、子どもの1ヶ月の平均読書量は、小学生が11.4冊（平成23年度は9.9冊）、中学生が4.2冊（平成23年度は3.7冊）、高校生が1.4冊（平成23年度は1.8冊）となっており、5年前と比較すると小・中学生は増加していますが、高校生は減少しています。

また、1ヶ月間に1冊も本を読まなかった子どもの割合は、小学生が4.0%（5年前は6.2%）、中学生が15.4%（平成23年度は16.2%）、高校生は57.1%（平成23年度は50.8%）で小・中学生は改善しているものの、高校生の不読率の割合は大幅に増加しています。

本市の現状は、平成29年に実施したアンケート調査結果によると、1ヶ月間に1冊も本を読まなかった子どもの割合は、小学生が0.6%（平成23年度は0.5%）、中学生が7.6%（平成23年度は2.1%）、高校生が39.7%（平成23年度は15.6%）となっており、全国平均と比較すると割合は少ないものの、学齢が進むにつれての不読率は深刻なものとなっています。

3 国の動向

平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が、公布・施行されました。その中で、子どもの読書活動の推進に関する基本理念が定められ、国及び地方公共団体の責務が明らかにされました。平成14年8月に同法に基づく「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定され、あらゆる機会とあらゆる場所において読書活動を行うことができるよう、総合的に読書環境の整備を推進することが求められています。

また、子どもが読書活動を行う意欲を高めるため、ユネスコで採択された「世界本の日」である4月23日を「子ども読書の日」と決めました。

その後、概ね5年ごとに計画の見直しが行われており、平成25年5月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第3次）」が策定されました。

一方、平成18年12月に教育基本法、平成19年6月に学校教育法が改正され、この中で学校における読書推進についても規定されています。

〈Ⅰ〉文字・活字文化振興法の制定（平成 17 年 7 月）

第 3 条の基本理念で文字・活字文化の振興に関する施策の推進は、すべての国民が、その自主性を尊重されつつ、生涯にわたり、地域、学校、家庭その他の様々な場において、居住する地域、身体的な条件その他の要因にかかわらず、等しく豊かな文字・活字文化の恵沢を享受できる環境を整備することを旨として、行われなければならないと規定されています。

〈Ⅱ〉教育基本法の改正（平成 18 年 12 月）

第 10 条第 1 項で、家庭教育の重要性に鑑み、父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする規定し、第 2 項で国及び地方公共団体の責務を定めています。また、第 13 条に、学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする規定が新設されています。

〈Ⅲ〉学校教育法の改正（平成 19 年 6 月）

義務教育として行われる普通教育は、第 21 条で、読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと等が規定されました。

4 県の動向

福岡県では、平成 16 年 2 月に「福岡県子ども読書推進計画」が策定され、県内の読書に関する機関、施設、団体等が子どもの読書活動を推進していくための総合的な指針が示されました。

その後、より効果的に子どもの読書活動を推進するため、概ね 5 年ごとの計画の見直しが行われており、平成 28 年 8 月に「福岡県子ども読書推進計画（改訂版）」が策定されました。

また、県の事業として、平成 27 年度から、「子どもの読書活動充実事業」（「家庭での読書『うちどく』」、「中学生読書活動サポーター養成事業」）が実施されています。

第2章 基本的な考え方

1 計画の目的

この計画は、子どもの読書活動に係る家庭、地域、保育園（所）、幼稚園、学校、行政がそれぞれの役割と機能を発揮し、連携することで、子どもたちの発達段階や個性に応じた自主的な読書活動を促すとともに、読書活動を通じて心豊かな生活を送ることができる環境を整備し、施策の推進を図ることを目的とします。

2 計画の位置付け

この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づく、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」、及び「福岡県子ども読書推進計画」を基本とします。

さらに、糸島市長期総合計画、糸島市教育振興基本計画などを踏まえ、これからの糸島市における子どもの読書活動推進の方向性を示すものです。

3 計画の目標

(1) 家庭・地域・保育園（所）・幼稚園・学校等における子どもの読書活動の推進

すべての子どもがあらゆる機会と場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、子どもの発達段階・個性に応じて人間形成に役立つ本と出会うきっかけづくりや読書活動、読書環境の整備を推進します。

(2) 子どもの読書活動の推進体制の整備と普及啓発の推進

子どもの読書活動の意義や重要性について、大人の理解を深め、関心を高めるために、市立図書館と保育園（所）、幼稚園、学校図書館、地域住民・ボランティア団体等の連携による取組みを進めるとともに、あらゆる機会を活用した積極的な普及啓発を推進します。

4 計画の対象

この計画における子どもとは、概ね18歳以下の者を対象とします。

5 計画の期間

平成29年度から平成33年度までの概ね5年間とします。計画終了時に総括を行い、必要に応じて計画の見直しを行います。

第3章 これまでの取組みの成果と課題（平成24年度～平成28年度）

「糸島市子ども読書推進計画」に基づいた5年間の施策検証について、「子どもの読書に関するアンケート」と保育園（所）・幼稚園・学校など関係機関に対する取組み調査を実施した結果、成果と課題について以下のようなことが分かりました。

1 成 果

（1）家庭・地域

ブックスタート事業で絵本をもらった3～6歳児及び小学2年生の保護者の80%以上がその絵本を使用していました。

註1) ブックスタート 赤ちゃんと保護者が絵本を介して、心ふれあうひとときを過ごすきっかけを作る活動。

（2）保育園（所）・幼稚園

保育園（所）及び幼稚園の96%が読み聞かせをしており、本を読むことが好きな園児が96%と高い割合を示しています。

（3）学校

小学校、中学校、高校では主に、「授業での本を使った調べ学習」（87.5%）など学齢により取組み方は異なりますが、様々な読書活動が行われています。

また、平成23年度実施の同アンケートと比較すると、「読み聞かせが好き」（小学2年生）、「本を読むのが好き」（小学4年生及び小学6年生）という児童が増えています。

2 課 題

（1）3～6歳児及び小学校低学年の家庭の状況

3～6歳児及び小学2年生の保護者に1か月に読む本の冊数を尋ねたところ、0冊が最も多く、本を読まない保護者や読み聞かせをしていない保護者の割合が増加しています。

（2）中高生の状況

中学2年生及び高校2年生に1か月に読む本の冊数を尋ねたところ、0冊と答えた生徒は、中学2年生が2.1%から7.6%に、高校2年生が15.6%から39.7%へ大幅に増加しており、本を読まない中高生が前回のアンケートから約3倍に増えています。

（3）保育園（所）、幼稚園の状況

家庭でも読書を楽しむことの大切さの啓発や蔵書の充実、環境整備、移動図書館廃止後の図書館との連携などが望まれます。

（4）学校の状況

スマートフォンやパソコンの普及による読書量の減少への対策、保護者や教師も含めた読書活動の推進、蔵書の充実や学校図書館の環境整備、市立図書館との連携が望まれます。

第4章 推進のための方策

本計画では、これまでの取組みを継続しながら、第3章で挙げた課題のうち、以下について重点的に取り組みます。

1 重点項目

幼児～小学生に対して

- うちどく（家読）の推進

中高生に対して

- 読書時間の確保
- 学校及び市立図書館における資料の充実
- 市立図書館ホームページにおける情報発信

保育園（所）、幼稚園

- 保育園（所）、幼稚園と市立図書館間の配送システムの検討

学校

- 学校図書館資料の充実
- 学校司書の研修時間等の確保の検討
- 学校と図書館間の配送システムの検討

市立図書館

- 広報の充実
- 保育園（所）・幼稚園・学校との連携

2 家庭・地域・保育園（所）・幼稚園・学校等における子どもの読書活動の推進

(1) 家庭・地域

家庭は、子どもが読書習慣を身につけるいちばん身近なところであり、親子が読書の喜びを共有し、ともに成長していくには非常に大切な場となります。子どもの発達段階に応じて興味を持ち、感動できる本を提供していくことは、子どもの知的探求心の育成につながる大きな要因となります。

また、地域には子どもの読書活動を支える様々な施設や活動があり、子どもたちが家庭や学校以外で本と出会う場所となっています。

子どもが自分の身近なところで本と触れ合うことができるよう、読書活動を推進します。

①ブックスタート事業の充実

市立図書館では、親と子が絵本に親しむきっかけの提供と絵本を通して絆を深め、赤ちゃんが健やかに成長することを目的に、平成14年度からブックスタート事業を実施しています。現在、10カ月児健康診査時に図書館司書が、本とふれあう大切さを説明しながら、おすすめの絵本リストと一冊の絵本を手渡しており、今後も継続して実施します。

また、これから親になる方への読書啓発等に努めます。

②読み聞かせの機会の提供と充実

市立図書館では引き続き、赤ちゃんとその保護者のための「赤ちゃんのおはなし会」や「ちいちゃい子のおはなし会」を開催し、ブックスタート事業のフォローアップを行います。

3歳以上に対しては、「定例おはなし会」を糸島市図書館、二丈館、志摩館で開催します。

③うちどく（家読）の推進

子どもが読書習慣を身につけるためには、家庭での読書環境を整えることが必要です。子どもと大人が家庭で本に親しみ、本を介して家族間のコミュニケーションが図られます。より身近なところで読書活動が行われるよう、各機関（保育園（所）・幼稚園・学校・市立図書館）が連携し、取り組みます。

また、市立図書館では、家庭における概ね小学2年生までの読み聞かせを推奨し、市広報、館報「としょかん通信」、チラシ、ホームページ等を活用し、情報の提供を積極的に行います。

④地域読書活動の支援

市立図書館では、地域で読書ボランティアを行っている団体等や地域文庫への支援として、ボランティア育成、文庫活動の紹介、読み聞かせの技術向上のための研修会や講座等を行います。

また、団体間の交流や情報提供を行うためのネットワークを充実させます。

(2) 保育園（所）・幼稚園

保育園（所）・幼稚園は、子どもが一日のうちで多くの時間を過ごす場所であり、子どもの心の成長に深い関わりを持っています。初めての集団生活の場で絵本を見たり、読み聞かせを聞いたりすると、家庭とは違う環境で子どもの言葉や遊びが広がります。このような幼児期読書の重要性に鑑み、保育園（所）・幼稚園での読書活動を推進します。

①読み聞かせの推進

読書ボランティア団体等の協力により、保育園（所）・幼稚園でのおはなし会等の活動を行います。また、保育士や幼稚園教諭に読書活動推進の研修を実施します。

②読書活動推進の環境整備

絵本コーナーの設置や資料の充実に努め、子どもが本に親しみと楽しさを感じられるようなスペースや読書時間の確保に努めます。また、図書資料については、市立図書館の団体貸出を利用し、保育園（所）、幼稚園と図書館間の配送システムについて検討します。

③うちどく（家読）の推進

乳幼児期は、豊かな感性をはぐくむ大切な時期です。読み聞かせなどで周りの大人と一緒に絵本を楽しむと、子どもとの絆が深まるとともに、家庭での読書習慣の定着へとつながります。このようなことを踏まえ、保護者への読書啓発に努めます。

（3）学校

学校図書館は、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であると謳われています（学校図書館法第1条）。また、学校図書館には、効果的な運用と活性化を図るため、司書教諭が配置されています。児童生徒が読書を通して自ら学ぶ力や豊かな人間性を育めるよう、学校図書館の整備・充実に努めます。

①学校における読書活動の推進

児童・生徒の読書への動機づけとして、朝の読書活動等に取り組み、各授業での図書資料の活用や読書ボランティアによる読み聞かせを行います。

また、市立図書館で開催される「小学生読書リーダー養成講座」や「中学生読書活動サポーター養成事業」に参加し、読書活動推進に関わる人材育成を行います。

②魅力ある学校図書館の整備

児童・生徒が様々な本に出会えるよう図書資料の充実に努め、各学校間や市立図書館との相互利用ができる環境づくりに取り組みます。また、魅力ある学校図書館とするため学校司書の研修時間等の確保について検討します。

図書資料については、市立図書館の団体貸出を利用し、市立図書館との連携がとれるよう、学校と図書館間の配送システムについて検討します。

③関係機関や読書ボランティアとの連携とネットワークづくり

糸島市学校図書館協議会及び学校司書臨時職員研修会の充実に努め、情報交換を行うとともに市立図書館と連携し、小学校・中学校・高校における読書活動に取り組みます。

④うちどく（家読）の推進

家庭での読書を推進するため、PTAと連携し、「うちどく（家読）」の推進に努めます。

（４）市立図書館

市立図書館は、平成17年11月に糸島市図書館（ぱびるす館）を開館し、平成23年10月に二丈館と志摩館を開館しました。

その後、図書館サービスの更なる拡充を図るため、平成27年7月に糸島市図書館、翌年4月に二丈館、志摩館が移転開館し、新たな三館体制がスタートしました。

糸島市図書館は、3階建てとなり、2階を児童及びYAのフロアとしています。

二丈館では、視聴覚資料を所蔵し、同一建物内にある深江公民館と連携して大人も子どもも楽しめる異世代交流事業を行っています。志摩館では、親子で楽しむ図書館として、児童書を中心に配置し、同一敷地内にある芸術・起業支援施設である「いとしま応援プラザ」と連携事業を行っています。

各図書館は身近な図書館として、大人も子どもも本と出会い、読書を楽しむことができます。また、本の貸出だけでなく、おはなし会、ポスターコンクール、春と秋の読書まつり、夏休み子ども教室等様々なイベントを行っています。

市立図書館は、地域団体や保育園（所）、幼稚園、学校と連携しながら読書活動を推進します。

①児童図書の整備・充実

子どもたちが、年齢に応じた図書に出会えるよう様々な図書資料を充実させます。

また、ブックスタート、おはなし会等で、おすすめの絵本リストの提供、資料展示を行い、保護者への支援を行います。

各図書館では、子どもたちが気軽に読書相談をできるような窓口の体制づくりときめ細やかな^{註2}レファレンスを行います。

註2) レファレンス 情報を求めている利用者に対し、図書館員が資料や文献などを検索・提供するサービス。

②ヤングアダルト（YA）サービスの充実

読書離れの傾向が懸念される中高生の読書活動を推進するため、同世代で組織するYA本研究会で選んだおすすめ本のリストを作成し、各中学校・高校へ配布します。

また、YA本研究会メンバーによるYAコーナーのテーマ展示や図書館事業への参画など、活動を通じて楽しく本と出会える機会を設けます。

今後も、YAコーナーの図書の充実を図るほか、新たな取組みとして、情報メディアの普及に着目し、図書館ホームページにおけるYA世代への情報発信を行い、電子書籍の提供に関する調査研究を行います。

③おはなし会や読書推進イベントの開催

おはなし会、ポスターコンクール、春と秋の読書まつり、夏休み子ども教室など乳幼児から中高生まで、年齢に応じたイベントを開催し、子どもが本に興味を持てるような機会（きっかけ）を提供します。

④うちどく（家読）の推進

保護者に子どもの読書活動の大切さを理解してもらうため、ブックスタート事業の中で、読み聞かせ、優良絵本の紹介、図書に関する相談に対応します。また、フォローアップとして、定例おはなし会や赤ちゃんのおはなし会、ちいちゃい子のおはなし会を開催しています。また、乳幼児向けの読み聞かせと併せて、新米ママ向けの講座、読み聞かせから自読へのステップアップを図るため、良書の紹介等を行います。

⑤読書ボランティア団体等の育成と支援

現在、地域文庫や市立図書館のおはなし会、学校での読み聞かせ等、様々な場所で読書ボランティアグループが活動されています。また、新たに読書ボランティアをしてみたい方のために、市立図書館では初級ボランティア講座を開催しています。

一方、各団体等の情報交換や研修の場として、「子どもの読書」ネットワーク糸島が組織されています。ボランティアグループへの情報提供も含め、育成と支援を行います。

⑥障がいのある子どもたちのための諸条件の整備・充実

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(平成28年4月)の施行に伴い、社会的障壁の除去についての必要かつ合理的な配慮を的確に行う必要があります。

市立図書館では、障がいのある子どもたちにも読書の楽しさを実感してもらうため、点字資料、大活字本、布絵本の充実を図るとともに、^{註3}マルチメディアデジターの提供に関する調査研究を行います。また、希望者に対しては、対面朗読用の部屋の提供を行います。

註3) マルチメディアデジター 視覚障がい者など読書に困難のある人々のために開発され、音声や文章、画像等を同時に表現することができ、発達障がい者や学習障がい者等、様々な人に有効な読書的手段として認められている。

⑦図書館司書の充実

市立図書館では、司書資格を有する職員を配置し、子どもの読書活動を推進する上で極めて重要な役割である図書資料の選書・収集・提供・読書相談、子ども読書活動に関する指導等を行っています。様々な相談に対応するためには、職員の更なる資質の向上が欠かせないため、研修会等に参加する等、専門知識・技術の習得に努めます。

3 子ども読書活動の推進体制の整備と普及啓発の推進

(1) 推進体制

①図書館と他の機関との連携・協力

計画の推進については、家庭・地域、保育園（所）・幼稚園、学校、市立図書館等それぞれの機関で行われていますが、これらの取組みを効果的に進めていくために、関係部署や子ども読書活動を推進する団体等と連携・協力する必要があります。

その推進拠点として図書館を位置付け、関係機関との情報交換や共同事業の推進を図り、より効果的な活動を進めていきます。

また、県内の図書館との相互貸借の活用や九州大学附属図書館との連携を図りながら、図書館サービスを展開します。

②ボランティア団体との連携・協力

本市では、子ども読書関連のボランティア団体が多く活動されています。特に「子どもの読書」ネットワーク糸島は、子ども読書活動推進を目的としたボランティア組織で、市内で活動するボランティア団体が多数参加しています。この「子どもの読書」ネットワーク糸島と連携・協力しながら、子ども読書活動を推進します。

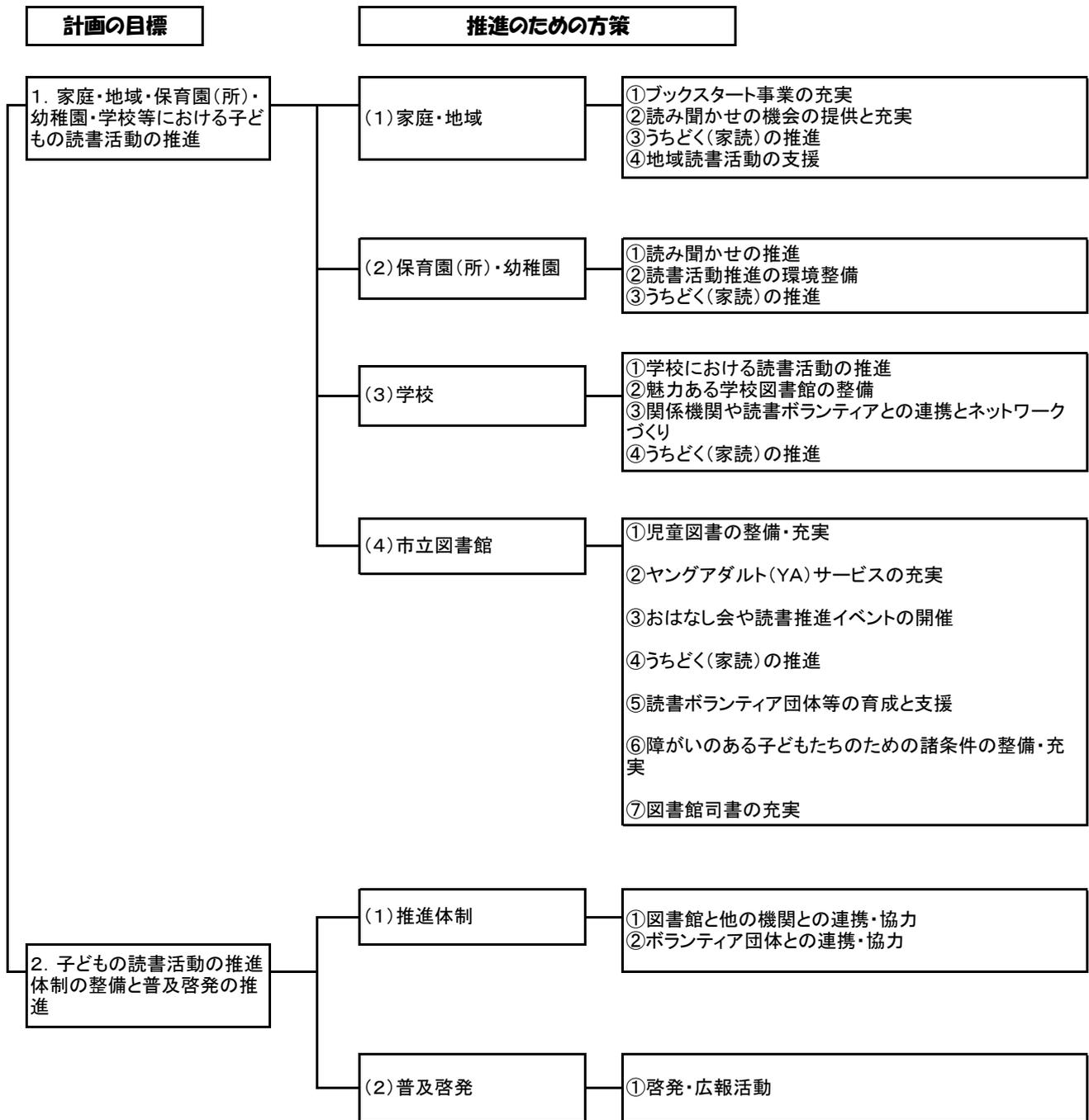
(2) 普及啓発

①啓発・広報活動

子どもを取り巻く大人を含めた読書活動を推進するためには、保護者、図書館司書、司書教諭、学校司書、保育士等がそれぞれの立場で、読書活動に理解と関心を持つことが、子どもに読書習慣を身につけさせる上で大切です。

このようなことから、各イベントや保護者等の大人が集まる機会を利用して、読書活動の意義や重要性について理解と関心を深めるよう啓発パンフレットの配布や図書を紹介等、啓発・広報を行います。

4 糸島市子ども読書活動推進計画体系



5 具体的な施策例

1. 家庭・地域

	項 目	内 容	担当・関係機関
1	ブックスタート事業の充実	○健康福祉センター「あごら」で10カ月児健診時におすすめ絵本リストと絵本を手渡し、読み聞かせや読書の大切さを説明	市立図書館 健康づくり課
2	読み聞かせの機会の提供と充実	○家庭・地域での読み聞かせを普及させるため、資料や情報の提供	市立図書館 子ども課 学校教育課 文化課
3	うちどく（家読）の推進	○各機関（保育園（所）・幼稚園・学校・市立図書館）との連携によるうちどく（家読）の推進 ○広報活動	保育園（所） 幼稚園 学校 市立図書館 子ども課 学校教育課 文化課
4	地域読書活動の支援	○読書活動団体のネットワーク化支援 ○地域文庫への読書活動支援	市立図書館 文化課

2. 保育園（所）・幼稚園

	項 目	内 容	担当・関係機関
1	読み聞かせの推進	○ボランティア等の協力による読み聞かせの充実、読み聞かせ研修会の実施	保育園（所） 幼稚園 市立図書館 子ども課
2	読書活動推進のための環境整備	○読書時間の確保 ○本と親しむ場所づくりの推進と市立図書館の団体貸出等を利用した読書環境の充実 ○保育園（所）・幼稚園と市立図書館間の配送システムの検討	保育園（所） 幼稚園 市立図書館 子ども課
3	うちどく（家読）の推進	○保護者への読書啓発	保育園（所） 幼稚園 市立図書館 子ども課

3. 学校

	項目	内容	担当・関係機関
1	学校における読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読、自読等の読書時間の確保 ○各授業等での図書館資料の活用 ○読書ボランティアによる読み聞かせの推進 ○ブックトーク^{註4}の推進 	学校 学校教育課 市立図書館
2	魅力ある学校図書館であるための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ○図書資料の充実 ○学校司書の研修時間等の確保の検討 ○学校図書館への情報の提供 ○市立図書館との連携（団体貸出の利用） ○学校と市立図書館間の配送システムの検討 	学校 学校教育課 市立図書館
3	関係機関や読書ボランティアとの連携、ネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○読書ボランティアとの連携による読み聞かせの実施 ○市立図書館、他校とのネットワークシステムの構築 ○糸島市学校図書館協議会及び学校司書臨時職員研修会の充実と情報交換、市立図書館との連携 	学校 学校教育課 市立図書館
4	うちどく（家読）の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA と連携したうちどく（家読）の推進 	学校 学校教育課 市立図書館

註4) ブックトーク 一定のテーマを立てて、時間内に複数の本を紹介し、その本の面白さを伝える手法。

4. 市立図書館

	項目	内容	担当・関係機関
1	児童図書の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ○年齢に応じた児童図書の提供 ○子どものレファレンス強化 ○新着図書、乳幼児向け絵本等の展示 	市立図書館
2	ヤングアダルトサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○YA 本研究会による中高生向けおすすめ本の選書及びリスト作成及び配布 ○YA 本研究会による YA コーナーのテーマ展示や図書館事業への参画 ○YA コーナーの図書の充実 ○図書館ホームページにおける YA 世代への情報発信 ○電子書籍の提供に関する調査研究 	市立図書館 学校教育課

3	おはなし会や読書推進イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ○定例おはなし会、赤ちゃんのおはなし会、ちいちゃい子のおはなし会、イベント等を開催 ○読書週間の取組み、夏休み子ども教室、ポスターコンクール、図書館視察見学等を学校、読書ボランティア等と連携実施 	市立図書館 学校
4	うちどく（家読）の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ブックスタート事業の充実 ○新米ママ向けの研修会 ○良書の紹介 	市立図書館 学校教育課 健康づくり課 子ども課
5	読書ボランティア団体等の育成と支援	<ul style="list-style-type: none"> ○読書ボランティア講座開催 ○「子どもの読書」ネットワーク糸島の支援 ○団体貸出の促進 ○協働イベントの開催 ○情報の提供 ○ボランティア団体等の交流の場の提供 	市立図書館
6	障がいのある子どもたちの諸条件の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ○点字資料、大活字本、布絵本の充実 ○マルチメディアデイジーの提供に関する調査研究 ○希望者に対して、対面朗読用の部屋の提供 	市立図書館
7	図書館司書の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○司書資格者の計画的配置による図書業務の充実 ○研修等による職員の資質向上 	文化課 市立図書館

資 料 編

アンケートからみた取組みの成果と課題（平成 24 年度～平成 28 年度）・・・・・・・・ 16

糸島市子ども読書活動推進計画実態アンケート集計結果（平成 29 年 1 月実施） ・ 27

アンケートからみた取組みの成果と課題（平成 24 年度～平成 28 年度）

平成 24 年度から前計画に基づき、子どもの読書活動の推進に取り組んできましたが、前計画策定時に行った「子どもの読書に関するアンケート」（平成 23 年 12 月実施、以下「平成 23 年度」）と同様、今回も平成 29 年 1 月（以下、「平成 28 年度」）にアンケートを行いました。また、関係諸機関（保育園（所）・幼稚園・学校・健康づくり課・子ども課・市立図書館）の取組みの調査も行いました。これらの検証の結果、取組みの成果と課題について以下のようなことが分かりました。

1 成 果

（1）家庭・地域

平成 28 年度に実施した「子どもの読書に関するアンケート」では、ブックスタート事業で絵本をもらった 3～6 歳児及び小学 2 年生の保護者の 80%以上がその絵本を使用していました。また、読み聞かせを始めたきっかけも、6%が「ブックスタートで絵本をもらった」ことでした。

「子どもが読書することは大切だ」と思っている 3～6 歳児及び小学 2 年生の保護者は前回に比べて若干減少しているものの、97%以上いることが分かりました（前回はほぼ 100%）。

（2）保育園（所）・幼稚園

同じく、平成 28 年度に実施した「子どもの読書に関するアンケート」によると、保育園（所）及び幼稚園の 96%が読み聞かせをしています。また、「読書時間の確保」（52%）、「うちどく（家読）の推進」（41%）、「読書ボランティアとの連携」（30%）にも力を入れていることが分かりました。

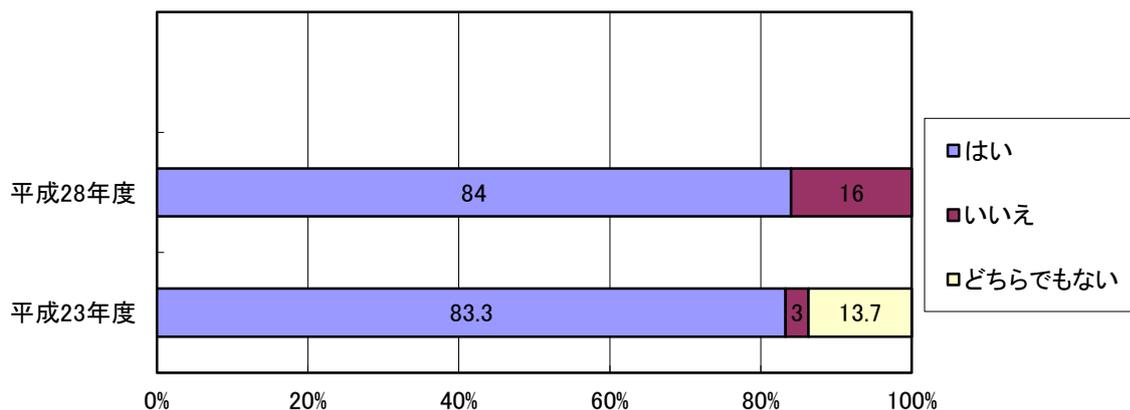
また、保育園（所）及び幼稚園を対象に調査を行ったところ、子どもたちについて「読書離れ」を感じていないという回答が 63%を占め、子どもたちは本や読み聞かせが好きだという認識を持っておられる方が多いことが分かりました。

（3）学校

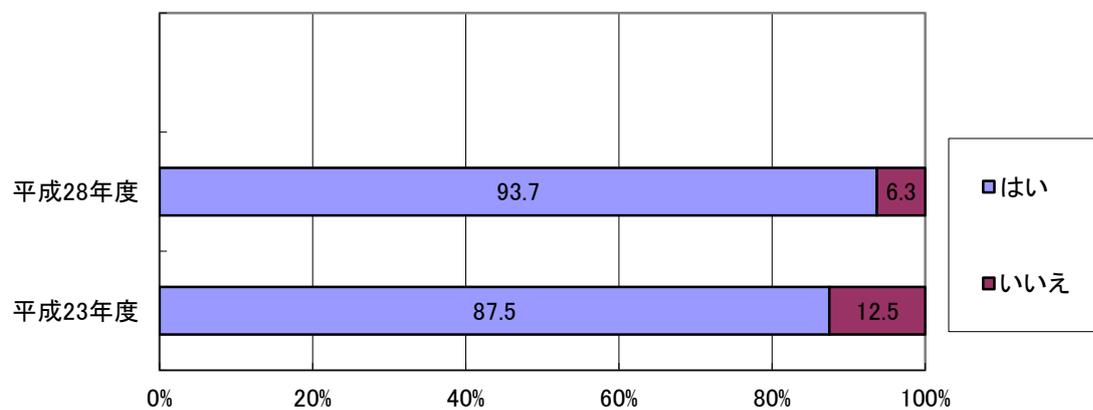
同じく、平成 28 年度に実施した「子どもの読書に関するアンケート」によると、小学校、中学校、高校では主に、「授業での本を使った調べ学習」（87.5%）、「読み聞かせ」（70.8%）、「読書ボランティアとの連携」（66.7%）、「朝読」（62.5%）、「読書時間の確保」（54.2%）と、学校段階により取組み方は異なりますが、様々な読書活動が行われていることが分かります。

また、平成 23 年度実施の同アンケートと比較してみると、「読み聞かせが好き」（小学 2 年生）、「本を読むのが好き」（小学 4 年生及び小学 6 年生）という児童が増えています。

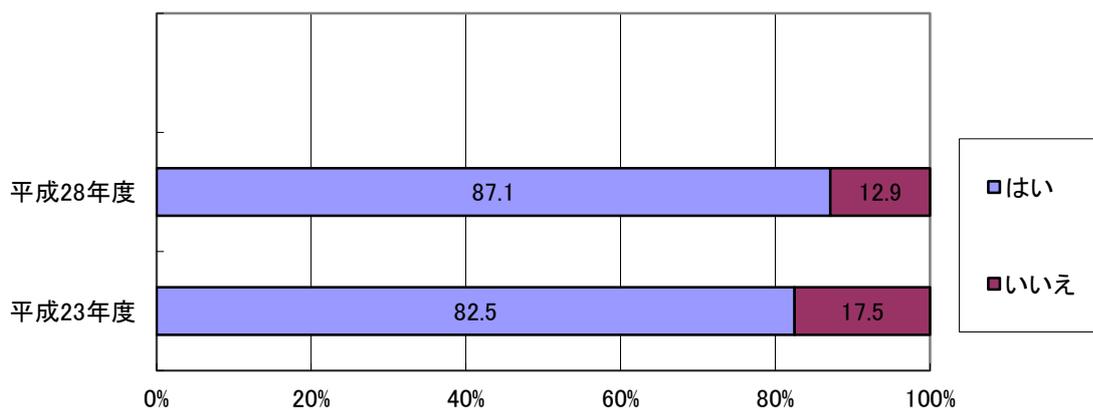
■小学2年生児童「読み聞かせは好きですか」



■小学4年生児童「本を読むのは好きですか」



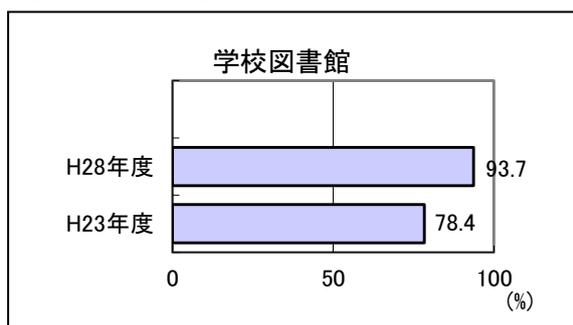
■小学6年生児童「本を読むのは好きですか」



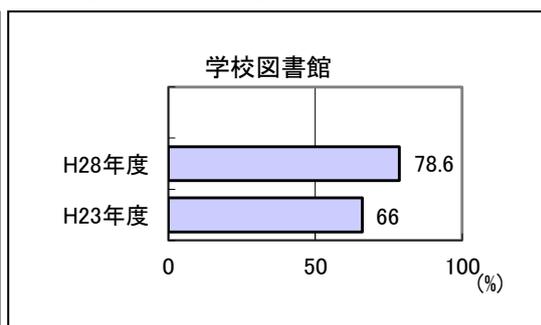
同様に、「学校図書館を利用して本を手に入れる」児童の割合は、小学4年生及び小学6年生ともに増加しています。

■「どこで読みたい本を手にいれますか」（複数回答）

【小学4年生】

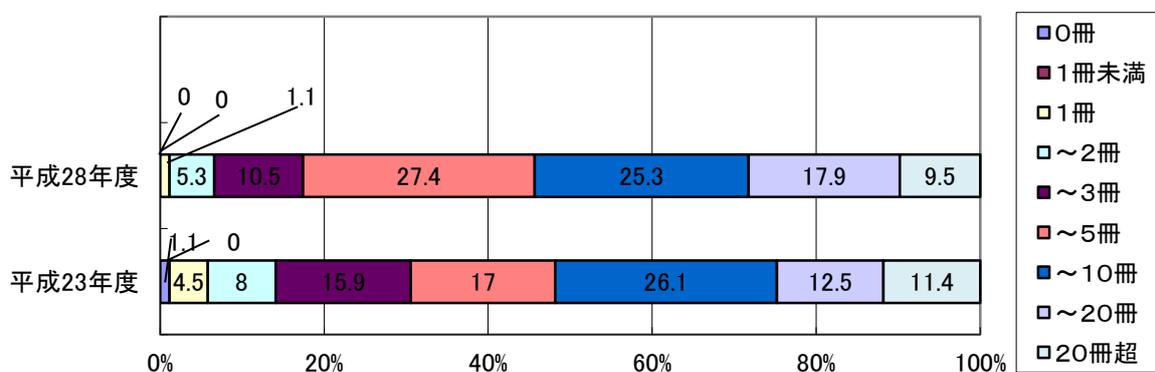


【小学6年生】



また、「1か月に読む本の冊数」について比較したところ、小学4年生は前回と今回実施のアンケートではほとんど変化がなく、小学6年生は若干の増加が認められます。また、「1か月に読む本の冊数」が0冊と回答した児童は、前回・今回ともに2%未満でした。

■小学4年生が1か月に読む本の冊数



■小学6年生が1か月に読む本の冊数



以上により、小学校における読書活動への取組みの成果が表れていることが分かります。

(4) 市立図書館

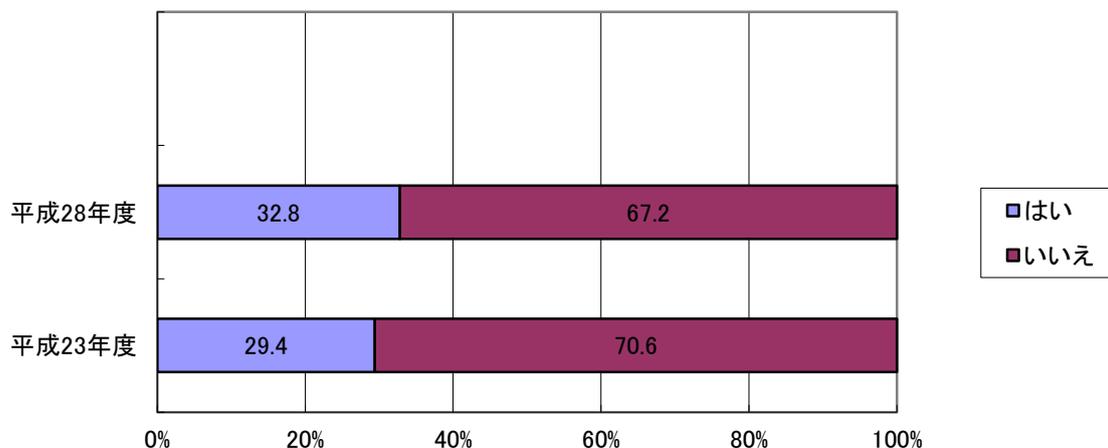
赤ちゃんのおはなし会、ちいちゃい子のおはなし会、定例おはなし会、YA本研究会など、0歳児からYA世代までそれぞれの年齢に応じた読書推進に関する取組みや、小学生読書リーダー養成講座や中学生読書活動サポーター養成事業といった学校と連携した事業

が行われています。また、春と秋の読書週間や夏休みには、子ども向けの様々なイベントが開催されています。

「子どもの読書に関するアンケート」の前回実施分と比較してみると、平成28年度は、「図書館に行ったことがない」という3～6歳児及び小学2年生の保護者の割合が減少しています。他にも「図書館で本を借りる」（3～6歳児の保護者・小学6年生児童）、「図書館で本を読む」（小学4年生児童）、「図書館のおはなし会等に子どもが参加したことがある」（小学2年生の保護者）の割合が増えていることがわかります。

市立図書館の利用も少しずつ進んでいるようです。

■小学2年生の保護者「図書館のおはなし会等にお子さんが参加したことはありますか」

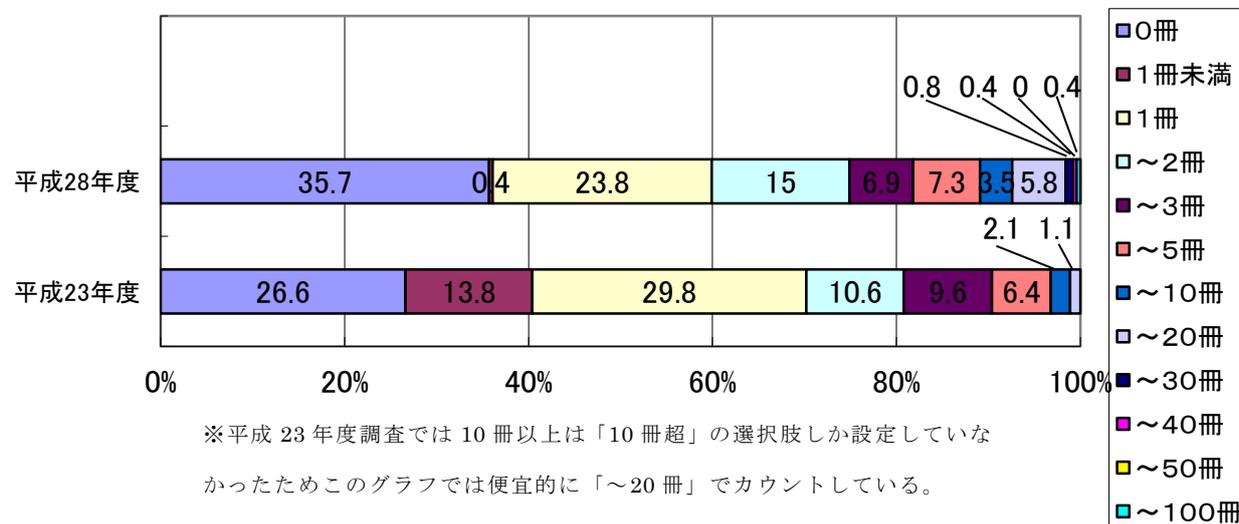


2 課題

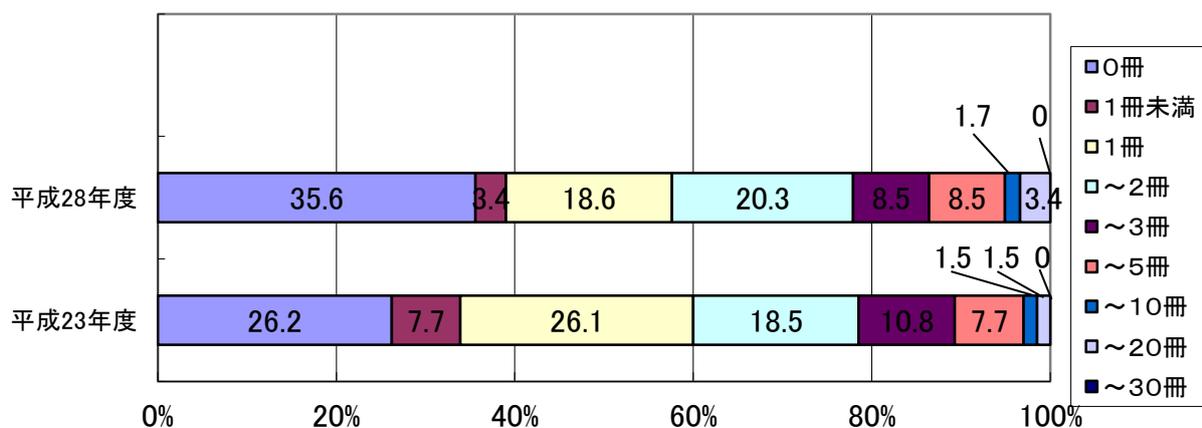
(1) 3～6歳児及び小学校低学年の家庭の状況

「子どもの読書に関するアンケート」において、3～6歳児及び小学2年生の保護者に1か月に読む本の冊数を尋ねたところ、平成23年度実施の調査では、3～6歳児の保護者は1冊が最も多かったのに対し、今回の調査では0冊が最も多く、本を読まない保護者が増えていることがわかりました。また、小学2年生の保護者も0冊の割合が増えています。

■3～6歳児の保護者が1か月に読む本の冊数

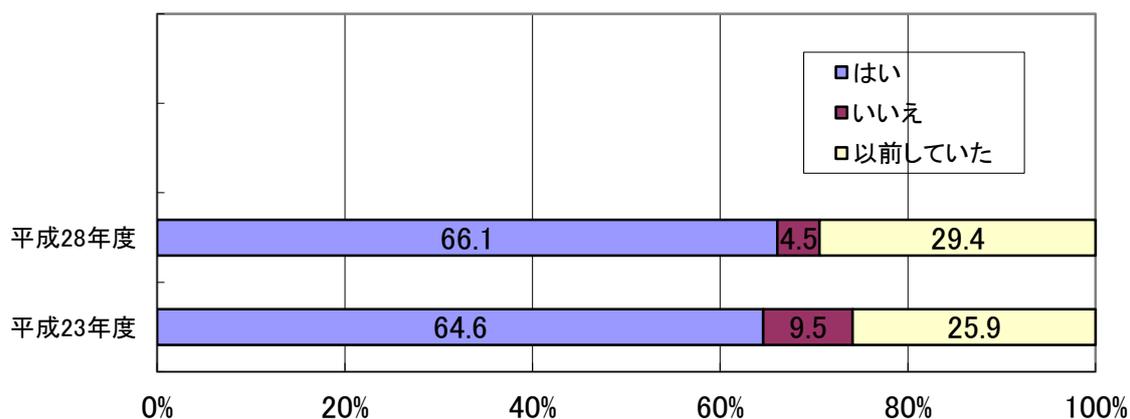


■小学2年生の保護者が1か月に読む本の冊数

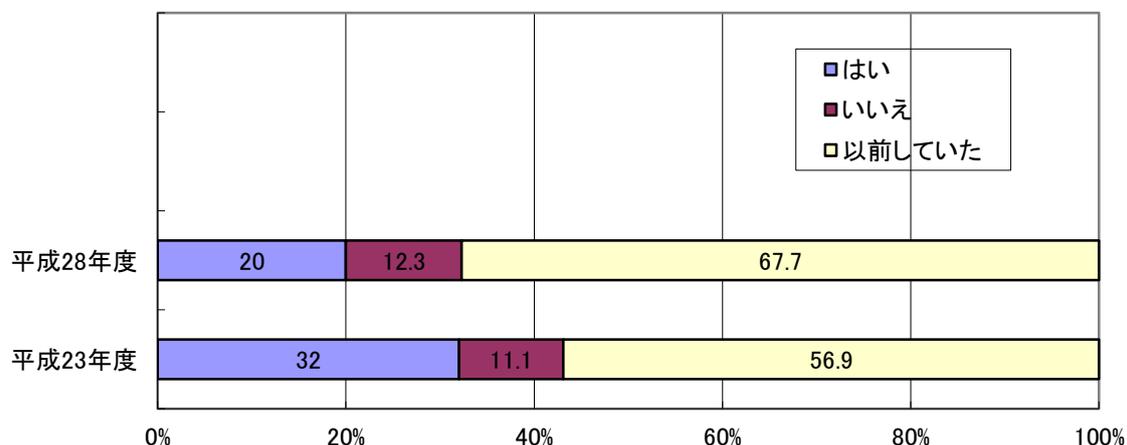


また、同アンケートで小学2年生の保護者に読み聞かせをしているか尋ねたところ、以前は読み聞かせをしていたが、現在も継続している保護者の割合が減少しています。

■3~6歳児の保護者で読み聞かせをしている



■小学2年生の保護者で読み聞かせをしている

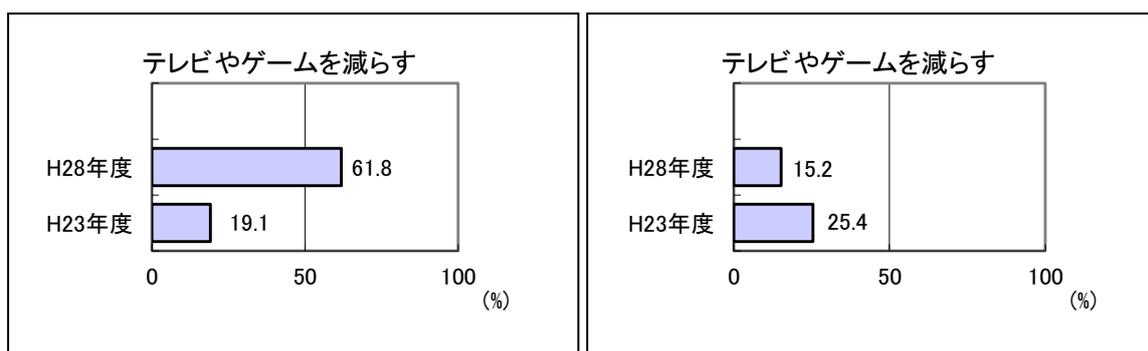
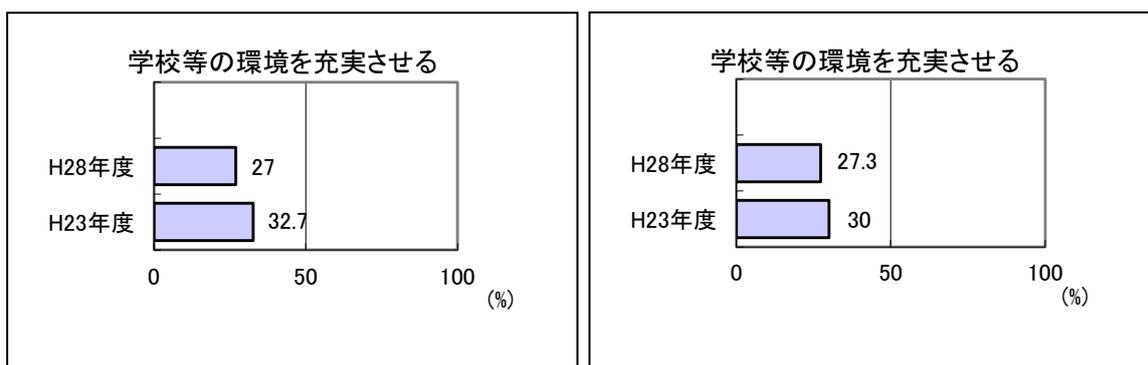
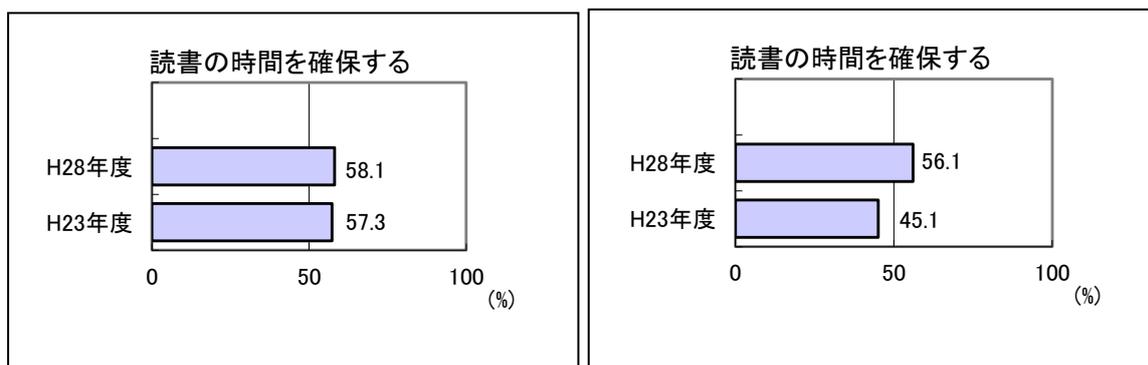
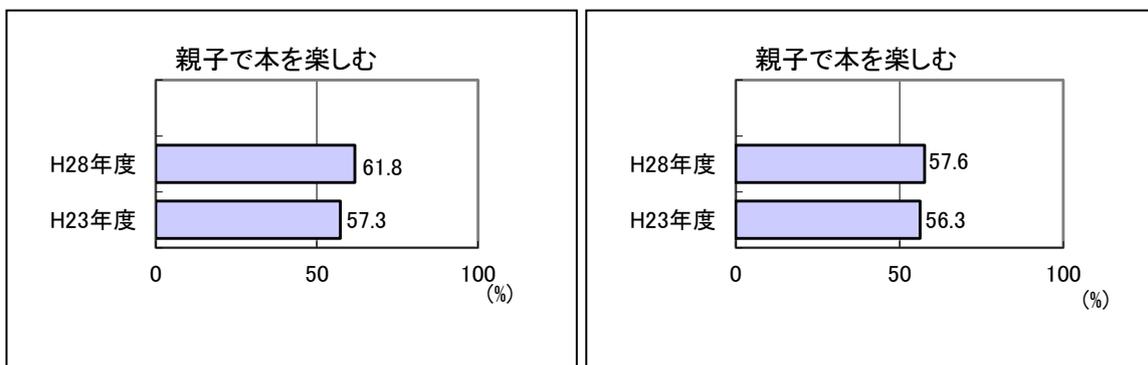


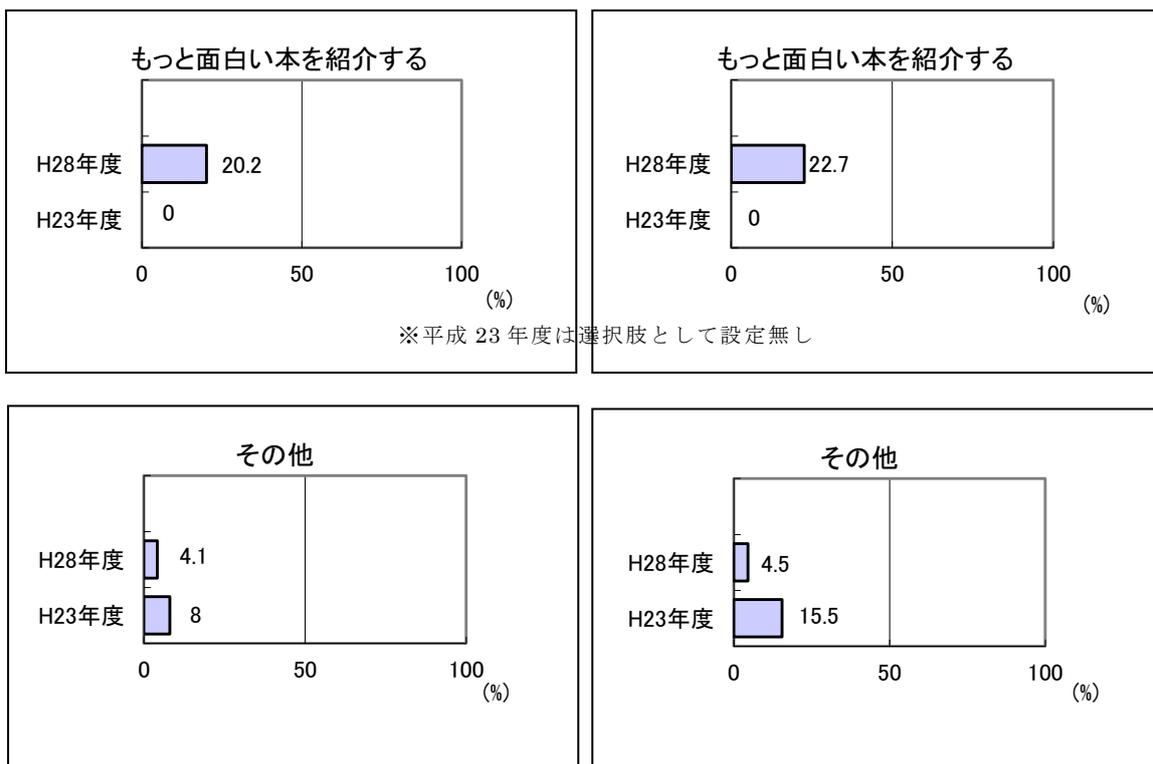
一方、同アンケートにおいて、3～6歳児及び小学2年生の保護者に対し、「どうすれば子どもたちがもっと本を読むようになると思うか」という質問に対しては、前回、今回ともに「親子でもっと本を楽しむ」「読書の時間を確保する」を挙げる割合が多いことが分かります。

■「どうすればもっと本を読むと思いますか」（複数回答）

【3～6歳児の保護者】

【小学2年生の保護者】



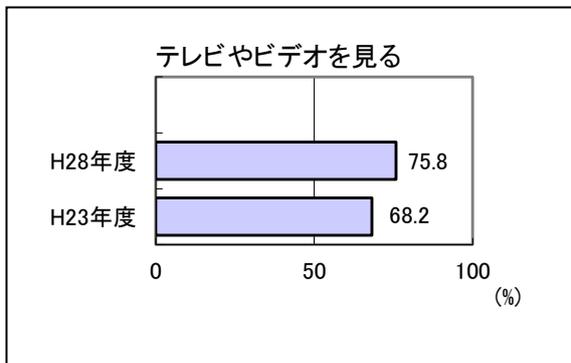


(2) 小学校高学年の状況

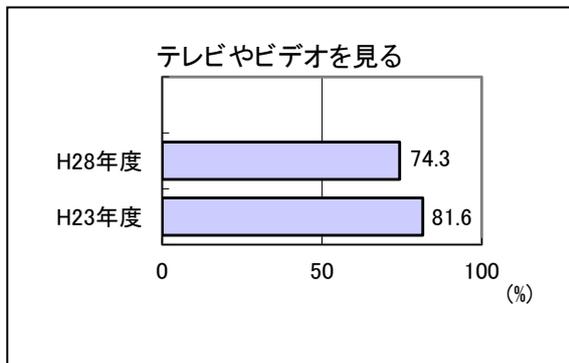
「子どもの読書に関するアンケート」において、小学 4 年生に対し、「平日の自由時間は何をしていますか」と質問したところ、前は、「テレビやビデオを見る」(68.2%)、「ゲームをする」(59.1%)、「パソコンを使う」(12.5%)であったのに対し、今回は、「テレビやビデオを見る」(75.8%)、「ゲームをする」(63.2%)、「パソコンやスマホを使う」(34.7%)とメディアを使用する割合が増加しています。なお、小学 6 年生は、前回のアンケートと比較したところ、メディアを使用する割合は減少しています。

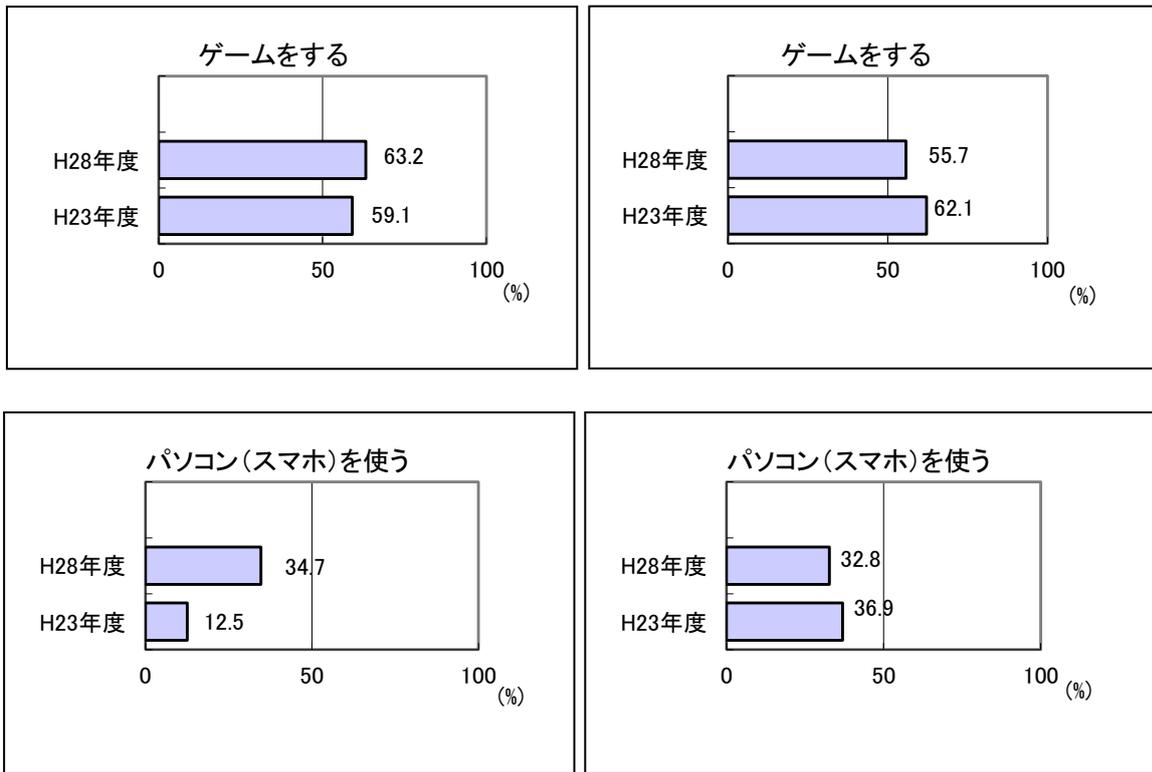
■ 平日の自由時間の過ごし方 (複数回答)

【小学 4 年生】



【小学 6 年生】

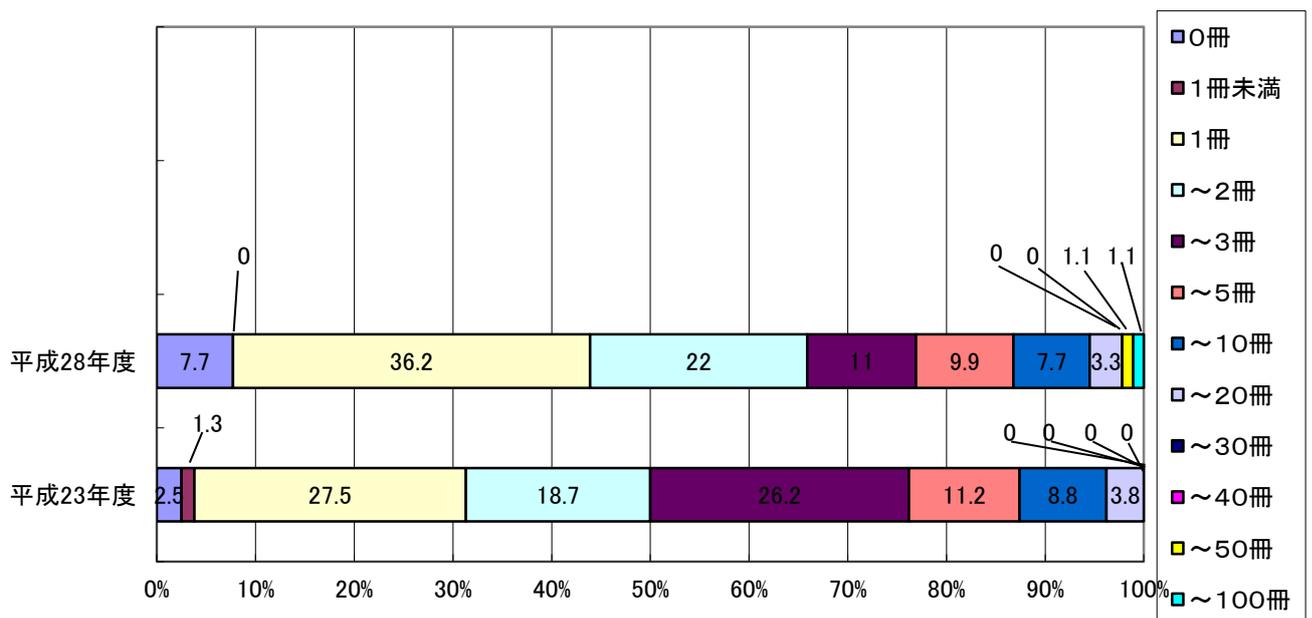




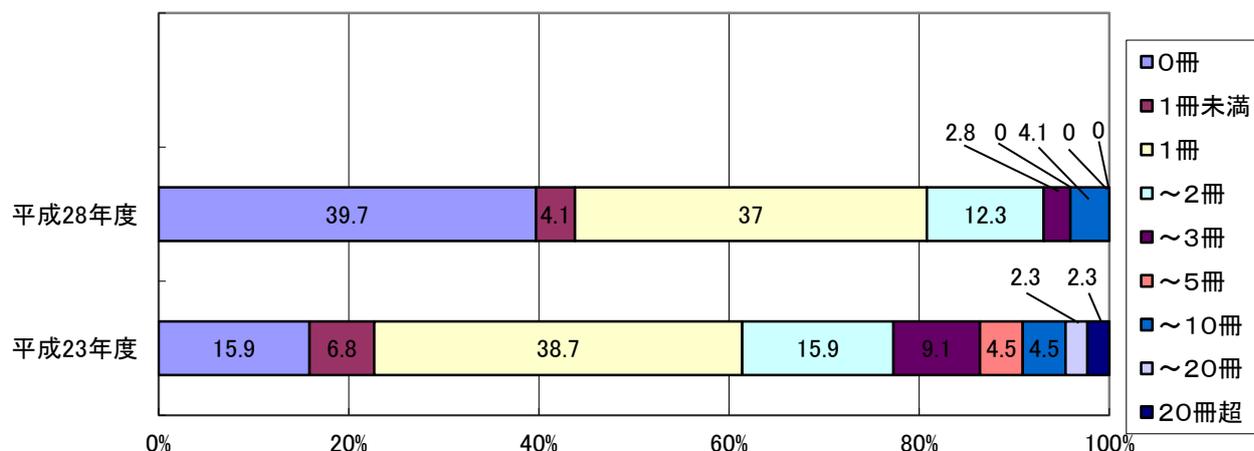
(3) 中高生の状況

「子どもの読書に関するアンケート」において、中学2年生及び高校2年生に1か月に読む本の冊数を尋ねたところ、0冊と答えた生徒は、中学2年生が2.5%から7.7%に、高校2年生が15.9%から39.7%へ大幅に増加しており、本を読まない中高生が前回のアンケートから約3倍に増えていることが分かりました。

■ 中学2年生の1か月に読む本の冊数



■ 高校 2 年生の 1 か月に読む本の冊数

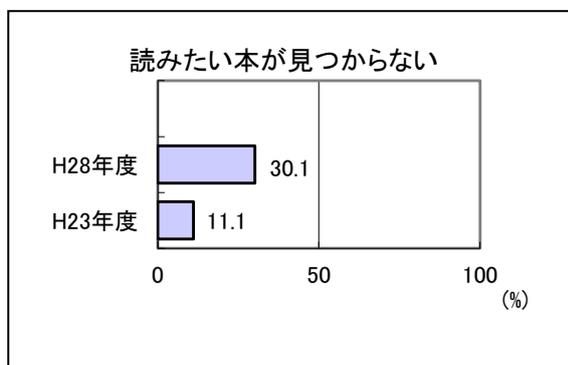
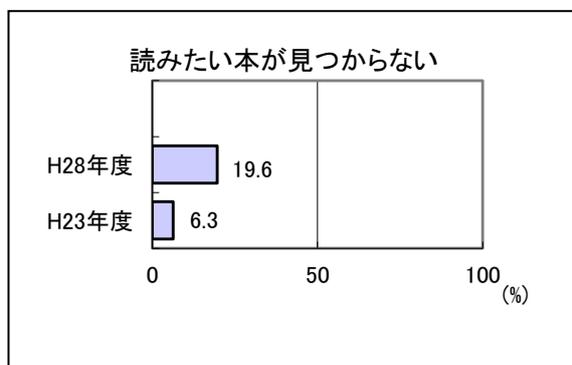
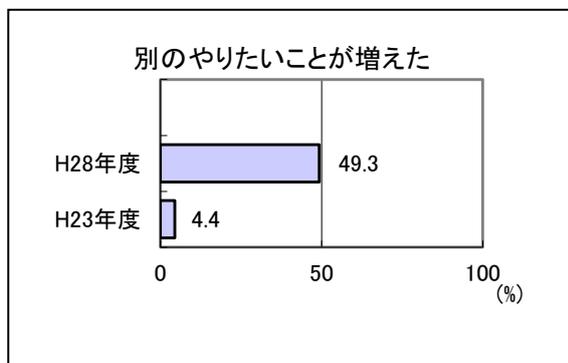
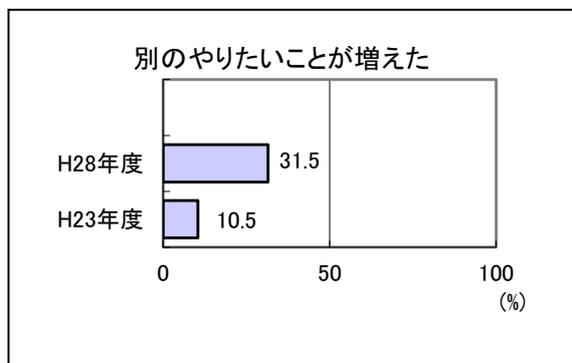


また、同アンケートで、小学生まで本をよく読んでいたけれども、中学校・高校に入って読まなくなった理由を尋ねたところ、「別のやりたいことが増えた」とする生徒が大幅に増えています。また、「読みたい本が見つからない」という理由も増加しています。

■ 中学校や高校に入って本を読まなくなった理由（複数回答）

【中学 2 年生】

【高校 2 年生】



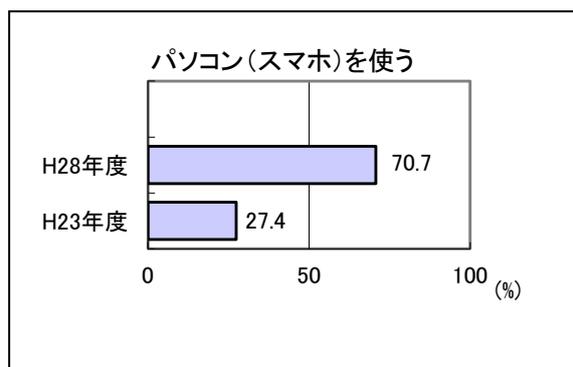
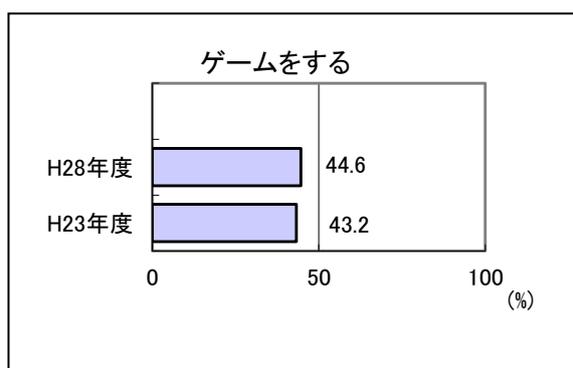
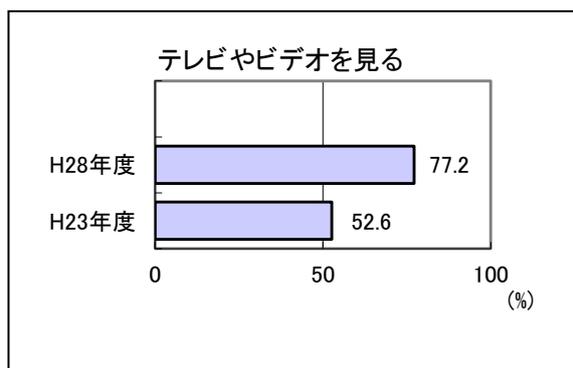
一方、「平日の自由時間は何をしていますか」という質問について、中学 2 年生は前回アンケートで、「テレビやビデオを見る」(52.6%)、「ゲームをする」(43.2%)、「パソコンを使う」(27.4%)であったのに対し、今回、「テレビやビデオを見る」(77.2%)、「ゲームをす

る」(44.6%)、「パソコンやスマホを使う」(70.7%)とメディアを使用する割合が増えています。

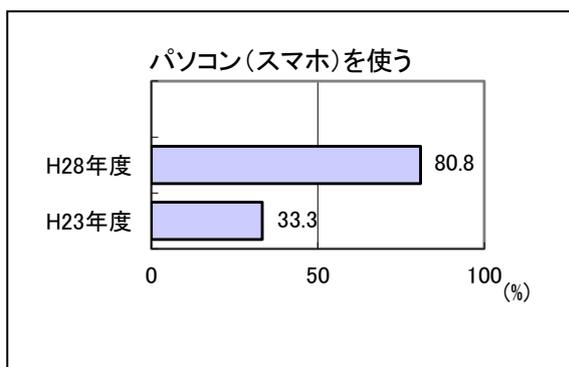
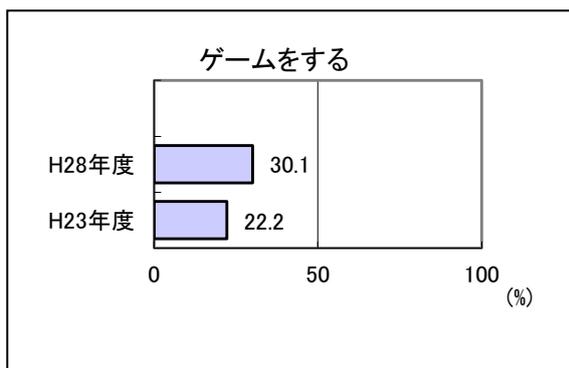
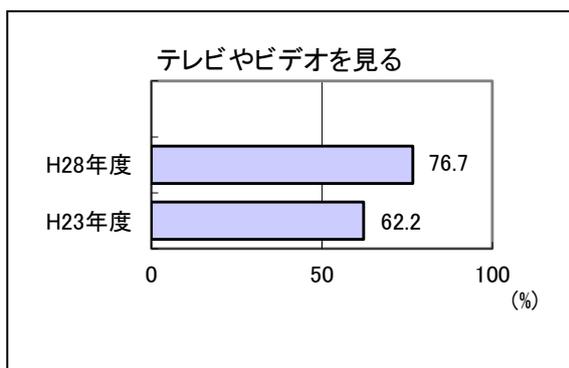
同様に高校2年生についても、前回、「テレビやビデオを見る」(62.2%)、「ゲームをする」(22.2%)、「パソコンを使う」(33.3%)であったのに対し、今回、「テレビやビデオを見る」(76.7%)、「ゲームをする」(30.1%)、「パソコンやスマホを使う」(80.8%)とメディアを使用する割合が大幅に増えています。

■平日の自由時間の過ごし方（複数回答）

【中学2年生】



【高校2年生】



(4) 保育園（所）、幼稚園の状況

平成28年度実施の「子どもの読書に関するアンケート」において、読書推進のための課題として、家庭でも読書を楽しむことの大切さの啓発や蔵書の充実、環境整備、移動図書館廃止後の図書館との連携などが挙げられています。

(5) 学校の状況

同アンケートにおいて、読書推進のための課題として、スマートフォンやパソコンの普及による読書量の減少、保護者や教師も含めた読書活動の推進、蔵書の充実や学校図書館の環境整備、市立図書館との連携などが挙げられています。

(6) 市立図書館の状況

「子どもの読書に関するアンケート」において、読書推進のための課題として、年齢によっては若干の改善はあるものの、依然として市立図書館に行ったことのない人及びイベントに参加したことがない人の割合が高いです。

【糸島市子ども読書活動推進計画実態アンケート集計結果】

(平成 29 年 1 月実施)

このアンケート調査の対象は、「子ども読書活動推進計画」を策定するため平成 29 年 1 月に本委員会で無作為に抽出した市内の保育園（所）、小学校、中学校、高校の 6 6 3 名及び保育園（所）・幼稚園の 2 7 園、小学校・中学校・高校の図書担当者 2 4 名にアンケート調査をお願いしたものです。

(1) 3～6 歳児・小学 2 年生保護者対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

(2) 3～6 歳児・小学 2 年生児童対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

(3) 小学 4 年生・6 年生児童対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

(4) 中学 2 年生・高校 2 年生生徒対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

(5) アンケート対象者数

対象者区分	回答者数	対象区分	回答者数
3～6 歳児の保護者 (児童は保護者聞き取り)	2 6 7 名	保育園（所）・幼稚園	2 7 園
小学 2 年生の保護者 (児童は保護者聞き取り)	6 6 名	小学校・中学校・高校の 図書担当者	2 4 名
小学 4 年生児童	9 5 名		
小学 6 年生児童	7 0 名		
中学 2 年生生徒	9 2 名		
高校 2 年生生徒	7 3 名		
合計	6 6 3 名		

【3～6歳児・小学2年生保護者アンケート】

Q1.子どもの年齢（もしくは学年）

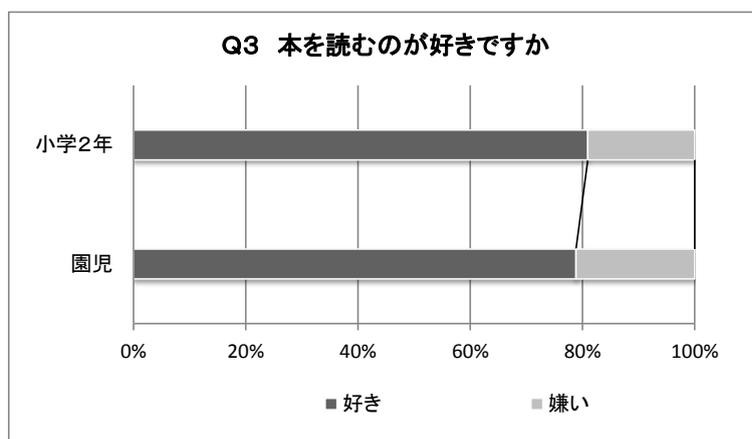
回答内容	園児	小学2年
3歳	13	
4歳	68	
5歳	104	
6歳	92	
小2		66
計	277	66

Q2.子どもが読書をするのは大切だと思いますか

回答内容	園児	小学2年
はい	261	65
いいえ	0	1
計	261	66

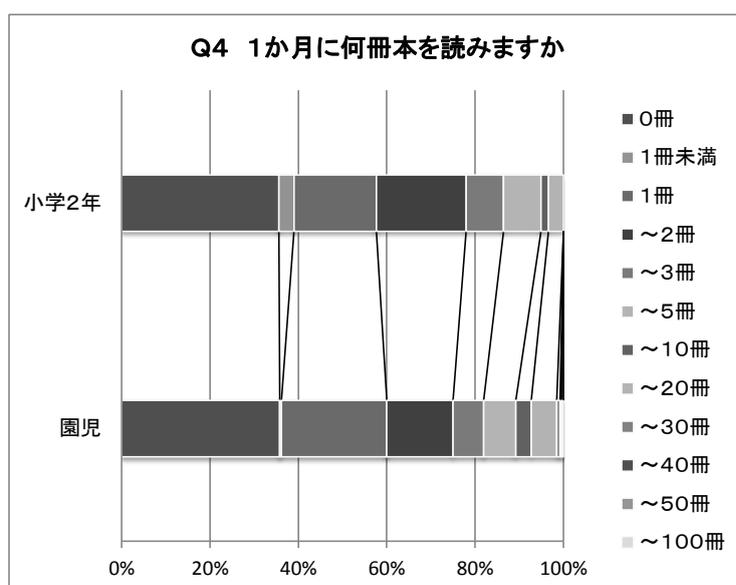
Q3. 本を読むのが好きですか

回答内容	園児	小学2年
好き	194	51
嫌い	52	12
計	246	63



Q4. あなたは、1か月に何冊本を読みますか

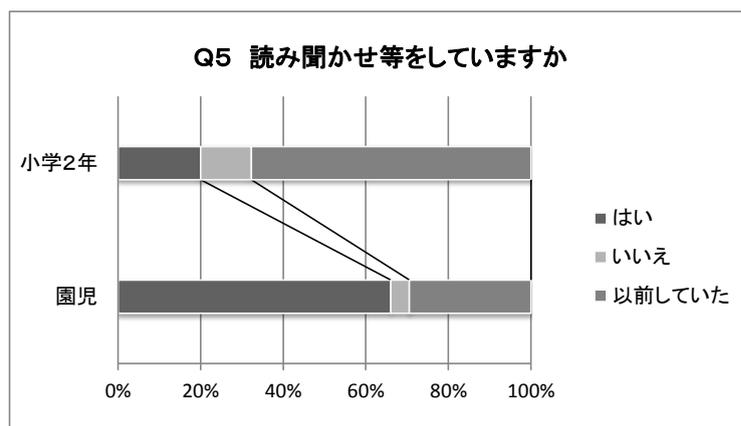
回答内容	園児	小学2年
0冊	93	21
1冊未満	1	2
1冊	62	11
～2冊	39	12
～3冊	18	5
～5冊	19	5
～10冊	9	1
～20冊	15	2
～30冊	2	0
～40冊	1	0
～50冊	0	0
～100冊	1	0
計	260	59



【3～6歳児・小学2年生保護者アンケート】

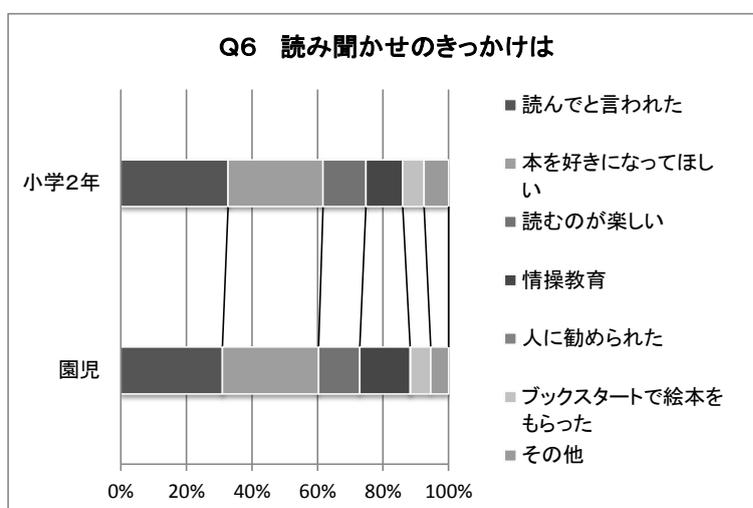
Q5. 読み聞かせ等をしていますか

回答内容	園児	小学2年
はい	175	13
いいえ	12	8
以前していた	78	44
計	265	65



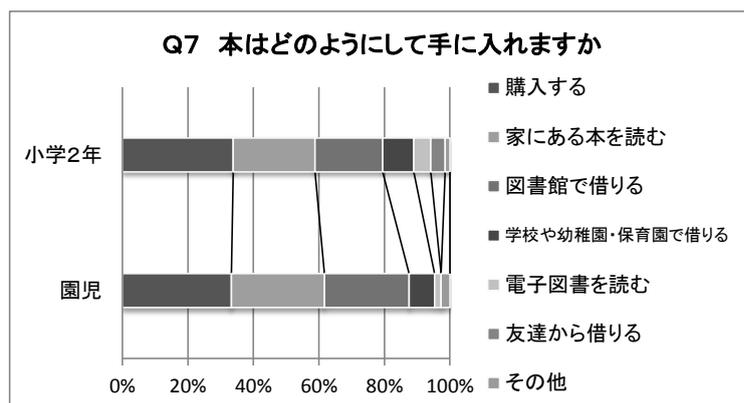
Q6. 読み聞かせのきっかけはなんですか (複数回答)

回答内容	園児	小学2年
読んでと言われた	153	35
本を好きになってほしい	145	31
読むのが楽しい	62	14
情操教育	76	12
人に勧められた	13	8
ブックスタートで絵本をもらった	30	7
その他	27	8
計	506	115



Q7. 本はどのようにして手に入れますか (複数回答)

回答内容	園児	小学2年
購入する	184	46
家にある本を読む	157	34
図書館で借りる	143	28
学校や幼稚園・保育園で借りる	43	13
電子図書を読む	11	7
友達から借りる	0	6
その他	15	2
計	553	136



【3～6歳児・小学2年生保護者アンケート】

Q8.ブックスタート事業で絵本をもらいましたか

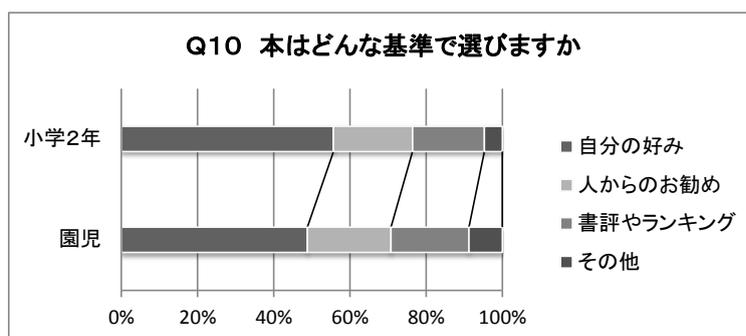
回答内容	園児	小学2年
はい	216	57
いいえ(転入も含む)	34	7
計	250	64

Q9. (Q8ではいの方) 絵本は使いましたか

回答内容	園児	小学2年
はい	212	57
いいえ(転入も含む)	4	1
計	216	58

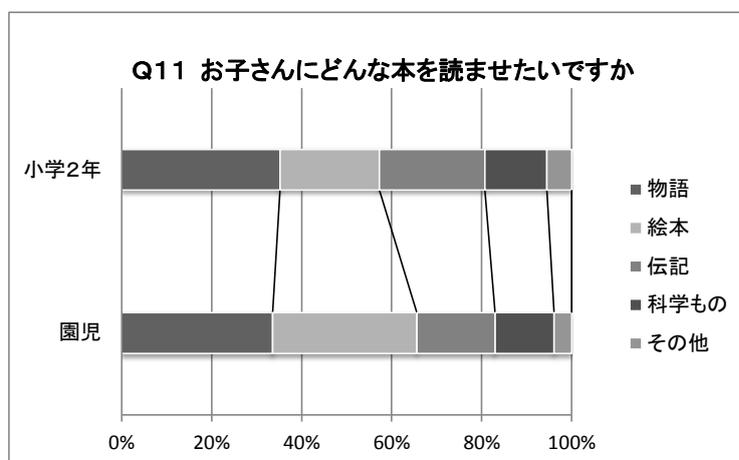
Q10. 本はどんな基準で選びますか
(複数回答)

回答内容	園児	小学2年
自分の好み	222	59
人からのお勧め	100	22
書評やランキング	93	20
その他	40	5
計	455	106



Q11. お子さんにどんな本を読ませたいですか
(複数回答)

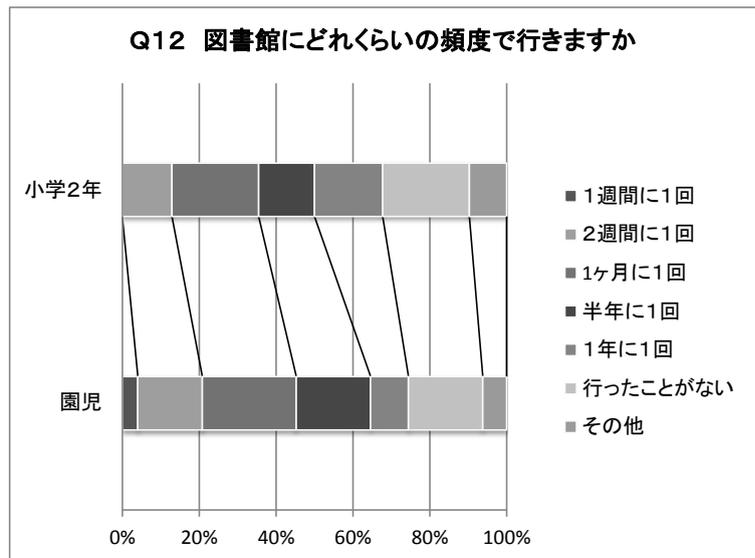
回答内容	園児	小学2年
物語	197	51
絵本	188	32
伝記	102	34
科学もの	77	20
その他	23	8
計	587	145



【3～6歳児・小学2年生保護者アンケート】

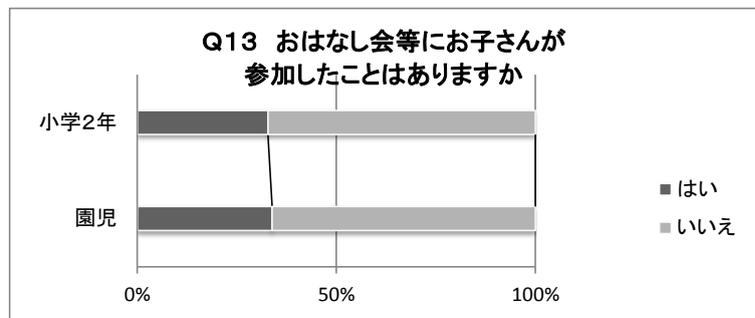
Q12. 図書館にどれくらいの頻度で行きますか

回答内容	園児	小学2年
1週間に1回	11	0
2週間に1回	46	8
1ヶ月に1回	67	14
半年に1回	53	9
1年に1回	27	11
行ったことがない	53	14
その他	17	6
計	274	62



Q13. おはなし会等にお子さんが参加したことはありますか

回答内容	園児	小学2年
はい	87	21
いいえ	170	43
計	257	64



Q14. どうすればもっと本を読むと思いますか (複数回答)

回答内容	園児	小学2年
親子で本を楽しむ	165	38
読書の時間を確保する	155	37
学校・幼稚園・保育園・図書館などの環境を充実させる	72	18
テレビやゲームを減らす	68	10
もっと面白い本を紹介する	54	15
その他	11	3
計	525	121

